北見農業会館 改築検討

オホーツク農協連 12月にも施工者選定

オホーツク農業協同組合連合会（北見市とん田東町617、渡辺勝美会長）は、北見農業会館改築を検討している。12月にも施工業者選定を進め、2022年春に着工するもようだ。

北見農業会館は1968年建設。同農協連など農業に関連した団体の事業所が入居し、敷地内には別館もある。設計者選定に着手していて、新施設の規模は延べ6000―7000平方㍍が見込まれる。

同農協連は、北見農業会館南側隣接地の北見市とん田東町617の167を含む敷地5000平方㍍を所有する。また、敷地内にある卸売食料品店旧トワニ北見店の土地も取得済み。解体を進めていて、この区画が改築予定地とみられる。用途地域は建ぺい率60%、容積率200%の第2種住居地域だ。

同農協連の担当者は「まだ検討段階で何も話せない」としている。

天使大外壁改修など公告

天使学園 5月25日に入札

学校法人天使学園（札幌市東区北13条東3丁目1の30、松岡健一理事長）は9日、法人所在地にある天使大4号館外壁改修、屋上防水を一般競争公告する。16日まで仕様書など必要書類を配布していて、5月25日午後1時に同大で入札する。2047年の法人創立100周年に向け、老朽化が進む4号館に外壁改修と屋上防水を施す。工期は12月末まで。会社所在地などは問わない。

必要書類の配布・問い合わせは同大、電話011（741）1051まで。

苫小牧埠頭

丸彦渡辺建設で新築

オイルターミナル事業部事務所棟

【苫小牧】苫小牧埠頭（苫小牧市入船町3丁目4の21、海津尚夫社長）は、オイルターミナル事業部の事務所棟新築を主体、設備一括で丸彦渡辺建設に依頼し、着工した。

建設地は苫小牧市真砂町にある現事務所が老朽化しているため建て替える。構造、3階、延べ1平方㍍の規模。設計は丸彦渡辺建設が担う。

新太平洋建設で着工

宮の森3条4 分譲MS新築

日本グランデ

日本グランデ（札幌市中央区大通西5丁目1の1、平野雅博社長）は、分譲マンションのグランファーレ宮の森コートハウス四季の杜新築を主体、設備一括で新太平洋建設に依頼し、着工した。2022年2月末の完成を目指している。

RC造、5階、延べ4970平方㍍の規模。住戸は2LDK15戸、3LDK26戸、4LDK10戸の計51戸を配置する考え。共用施設としてテレワークルーム、フィットネスルーム、シアター&カラオケルームなどを整備。駐車場は平置きで42台分設ける。設計は自社で担った。

建設地は札幌市中央区宮の森3条4丁目24を含む2685平方㍍の更地。周囲には分譲マンションや賃貸住宅が並んでいる。

バスタプロジェクト

国交省 ガイドラインまとめ

交通拠点機能強化

国土交通省は、バスタプロジェクトの全国展開に備え、交通拠点の機能強化に関する計画ガイドラインをまとめた。計画を立案する際に道路管理者が共通して把握すべき知識・ノウハウを整理した。バスタプロジェクトはバスタ新宿を皮切りに取り組みを拡大中で、今後、ガイドラインを活用して全国展開の一層の進捗を図る。

ガイドラインは第1部と第2部の2部構

緩和出口戦略は「ポスト黒田」へ

日銀の黒田東彦総裁の任期満了を迎える2023年4月8日まで3年を切った。ただ、任期から8年を経過しても日銀の物価目標は未達成で、日銀が今月公表する2度の物価見通しも達は厳しく、黒田総裁が半ばで後任へのバトンタッチを余儀なくされる可能だ。大規模な金融緩和の出口戦略は「ポスト黒田」へ持ち越しとなる公算が大きい。

日銀は26、27日に開く政策決定会合で、2021年度の物価情勢の展望（展望レポート）をまとめ、

コロナ禍 変わる働く場

コーユーレンティア 小山田一己札幌支店長

働き方改革やウィズコロナ・アフターコロナに備えた新しいオフィス空間が注目されている。オフィス家具・備品レンタル、買い取り事業を展開するコーユーレンティア（本社・東京）は、商材を貸し出すだけでなく、働く場のデザインや機能性、配置プランのプロデュースといった営業展開を強めている。小山田一己札幌支店長に事業展開を聞いた。

―コロナ禍で営業スタイルに変化はあるか。

音楽フェスや花火大会、マラソンなどさまざまなイベントに運営テント用のテーブル、パイロンなどをレンタルしていたが、コロナ禍で縮小・中止になったのは痛手だった。一方、飛まつ防止を目的としたパネル、検温器などを備えるのが当たり前になったことで、関連するアイテムの引き合いは強くなっている。

営業的な観点で見ると、新型コロナウイルスに対応した新スタイルのオフィスを提供できればと考えている。適度な距離を取れるようなレイアウトやアイテムを用いてパーソナルスペースを設け、感染対策と新しい発想を生み出す空間として活用される場をつくりたい。

―営業展開として力を入れていることは。

札幌支店としては、オフィスを中心に建物の改築や移転に伴うサポートに注力してきた。さらに、マンションについてもモデルルーム設置に伴う備品レンタルが主力の一つとなる。やはり再開発案件が多いことも理由にあげる。

近年は病院の移転に伴う情報を多く耳にするため、医療関連施設へ営業を強める。弊社は療機器から什器（じゅうき）、備品などを一括で扱い、買い取りにも応じている。不要品の付けまでワンストップサポート可能で、面倒な作業や費用などの負担軽減できる。

移転先では什器、備品のコストを抑えたいとい

「新空間」をプロデ

おやまだ・かずみ　1965年2月生まれ、八雲町出身。85年北海道建設工学専門学校卒。2000年にコーユーレンティアに入社し、茨城営業所所長、東京本社のRe営業部副部長を経て、21年1月から現職。

深掘り